

令和2年度 自閉症児のための水泳教室

特定非営利活動法人 岡山県自閉症児を育てる会



広報用実績のまとめ

令和 2 年度

団体名 特定非営利活動法人 岡山県自閉症児を育てる会	代表者 代表理事 鳥羽 美智代	記載者 事務局長 鳥羽 俊郎
所在地(市区町村名のみ) 赤磐市		
活動目的 令和2年度 自閉症児のための水泳教室		
団体の紹介 平成9年9月、自閉症児をもつ母親5人が、仲間を求めて「この指とまれ」と会を設立。 当初は水泳教室等の余暇活動や勉強会など会員向け活動を行っていたが、社会に向けて自閉症理解のための啓発活動なども行なうため平成12年6月に、日本最初の自閉症団体としてNPO法人認証を受ける。その後「ないものは創っていこう」を合い言葉に、市民向け啓発セミナー(年5回)、支援者向け連続講座(年10回)、児童発達支援・放課後等デイ事業、グループホームの建設・運営、無料電話相談などを実施。		
助成を受けての活動内容 自閉症を理由に、「危険だから」「責任がとれない」と地元のスイミングクラブから入会を断られた親子のために、「それなら自分たちで水泳教室を作ろう」と、第1回の「自閉症児のための水泳教室」を開催したのが平成10年ですから、もう22年前になります。令和3年1月の教室が数えて235回目の水泳教室です。 その間、参加者の入れ替わりは毎年ありましたが、いつもプールには子どもたちの歓声と笑顔があふれています。自閉症児はコミュニケーションや社会性を苦手とし、また環境の変化にも弱いため、学校のプールでも本来は個別の配慮が必要となります。しかし、知的に遅れがなく普通学級に通う子どもたちにとっては、自閉症という障害が理解されないためか、いきなりシャワーを浴びせられたり、プールに無理矢理入れられたり、と水を怖がるようになってしまった子もいます。私たちの「自閉症児のための水泳教室」では、障害に理解のあるコーチやボランティアの指導により、「水慣れ」から始めて、無理のないよう水泳を楽しむように心がけています。ただ、私たちが余暇活動として行なっている他の行事「サッカークラブ」「山登りの会」「キッズルーム(岡山大学体育館を借りて、学生さんたちと遊ぶ活動)」などと違って、子どもたちに安心して水泳を楽しんでもらえるよう、民間プールを貸切りで行なう水泳教室は、どうしても費用が嵩んでしまいます。障害のある子を育てるため共働きのできないご家庭や、療育のための費用もかかるため、参加費も高額にはしたくないと思っていたところ、幸いにも貴財団より助成をいただけることになり、令和2年度も月1回(コロナの影響で4月、5月の2回は、残念ながら中止になりましたが)水泳教室を開くことができています。ありがとうございました。		
助成を受けての成果 助成をいただけたおかげで、コロナウイルスの影響で休会希望も多かったのですが、なんとか水泳教室を今年度も継続することができました。普段の生活では、コミュニケーションや社会性の躓きから、人と関わるのが苦手な自閉症児たちですが、水の中ではお母さん、お父さんに頼って、文字通り裸でふれあい、とてもいい笑顔になっています。運動不足になりがちな彼らにも水泳が生涯を通しての趣味になることを願っています。		
今後の活動の課題点 課題としては、以前に比べボランティアの募集が難しくなっているように感じます。サッカーやキッズルーム等では、大勢のボランティアさんが応募してくださるのですが、水着になることに抵抗があるのか、男女とも水泳ボラが少ないです。お母さんの場合は月1回はプールに入れられないことがあるので、安全のため替わりに入ってくれるボランティアさんを確保することが、今後の課題となっています。		
問い合わせ連絡先もしくは、ホームページアドレス(加入希望の方などへのお知らせなど) Tel.086-955-6758、Fax.086-955-6748、E-mail acz60070@syd.odn.ne.jp ホームページ http://sodaterukai.org/index.html および http://ww3.tiki.ne.jp/~teppey/sodaterukai.htm		

※ このページは、財団ホームページや印刷物などで公表される資料として使用される場合があります。
A4用紙1枚程度におまとめください。(他の報告書との重複可)
写真・チラシ・パンフレット(PDFもしくは、画像)等を添付していただいても結構です。